

## インタビュー | 一條 亜紀枝 (No.117)

好き：美術（西洋美術、現代美術、日本画、浮世絵）

### Q.自分のベースになったと思う原体験は？

両親は、子どもには本物を見せるということを徹底していて。動物園や映画館、博物館、美術館もよく行っていました。でも色々見せても、リアクションの薄い子どもだったみたい。

小学校のときの遠足のとき、「彫刻の森美術館」のピカソ館で、「ゲルニカ」を見たときに「なにこれ！」って衝撃を受けて。「わー、大きい！」みたいなことだとは思んですけど。

テレビ東京の「美の巨人たち」。あれを真剣に見ていた時期があって。好きな番組なんですよ。今でも美術系のテレビ番組は好きですね。

中学校の学力テストが、主要5科目だけではなく、美術・音楽・家庭技術・保健体育を入れた9科目で。そこで美術の基礎知識も丸暗記して覚えてはいる。もしかすると、それってすごく良かったのかなって。

### Q.どこで、誰と出会う？

2014年の札幌国際芸術祭で、ボランティアセンターのスタッフとして関わることになったのです。センターのお店番くらいで安請け合いしたら、結構ハードで、どっぷり浸かることになって。会期の前半は会場も行けないくらいでした。

### Q.何を見た？

ボランティアメンバーと関わる中で、アカデミックにアートや美術史が好きな人、難しいことは分からないけど現代アートが大好きな人、とにかくボランティアに興味がある人。いろんなスタイルでアートを楽しんでいる人たちに会いました。

### Q.どう感じた？

現代アートはよくわかんないし、現代アートを好きな人もよくわかんないし、生まれてはじめて出会うモヤモヤだった。「この人たちの現代アートに対する熱量は一体なに？」っていう、あまりのわからなさにハマった、みたいな感じなんだと思うんですね。

### Q.そのあとのストーリー

どうしたらわかるようになるのだろう…と、詳しい人に聞いたり、本を読んでみたり。絵画や彫刻だったら、色や造形が美しいだけで、「いいなあ」「綺麗だな」「落ち着くなあ」って作品自体を鑑賞できると思うんです。でも、現代アートの作品は、造形の美しさもなくはないけど、自分が積極的に作品を解釈しないと楽しめないところがあるなど。少なくとも私は、世の中にもっと興味を持って、いろんなことを知らない作品を理解できないだろうというところまでは行き着いた。

SIAF2014での体験があんまり不可解すぎて、美術館に行ったら、鑑賞者を観察するようになった。実際のところはわからないんですけど、例えばメモしている人を真似してみたり。

2015年7月から北海道新聞のミニコミ紙「札歩路（さっぽろ）」のライターとして関わっていて、「アート&ステージ」という、若手のアーティストを紹介するコーナーがあって。いろんなジャンルの人に話を聞いて、なるほど、そんなこと考えてたんだみたいな色んな発見があります。

